

## “ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

施策(中柱)	誰もを惹きつけ、もてなす魅力づくり 「憧れ」を呼ぶ“ふじのくに”づくり
--------	--

### 1 基本情報

実施日/班名	9月8日 第1班	時間	15:40~16:13
--------	----------	----	-------------

### 2 レビューの結果 今後の方向性

	事業名	重点化	縮小
結果	ふじのくに観光ブランド創出事業費	27	5
	ふじのくに海外誘客推進事業費	17	8
	空港定期便拡充促進事業費	3	24
	航空保安関係事業費	7	7

### 3 県民評価者の意見

#### (1) 見直し・改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空港の有効活用、定期便拡充を進める意味でも、事業番号 14 に資源を投資すべきと考える。ただし、本日説明のあった内容で目標を達成できるとは考えられないので、他力本願なアピール作戦でなく、ホテルをはじめとする受け入れ体制の拡充を図るべきと考える。</li> <li>・ そもそも「世界に誇れる観光ブランドの創出」という目標と日本、国内向けの PR 作戦との間にミスマッチがあると思う。海外に向けて発する情報を整理しつつ国内にも展開していけばよい。</li> <li>・ 「世界に向けたブランド」をいうことが目標なのであれば、事業 13 - 14 を統合して進めていくべきではないか。</li> <li>・ 「世界遺産の富士山がある観光地だ」との意識を県民にもたせる必要がある。</li> <li>・ 13 項、14 項とも世界文化遺産「富士山」を協力してアピールしたイベントを企画し、実施していくこと。</li> <li>・ 地域の魅力を再度見直し、発掘してその創成に力を入れるべき。</li> <li>・ 15 事業は調査・分析が不足しており、13、14 事業と重複する項目が多々あるため縮小し、13、14 事業に吸収させるべきである。</li> <li>・ 16 項は世界で一番の安全で利用しやすく、サービスの良い空港を目指し、誘客のアピールの目玉とする。そのためには県側の関与、指導が必要である。</li> <li>・ ふじのくに観光ブランド創出事業は、大きな観光「富士山世界文化遺産」を柱として、他観光地を充実させ、アピールしていったら効果が高く、実施すべきと思う。</li> <li>・ 空港定期便拡充促進事業は、施策の多くが補助・負担で、今の実績では目的の達成が難しく、縮小したほうがよいと思う。</li> <li>・ 富士山世界遺産が今年採用されたので、是非ブランド創出事業をやってほしい。</li> <li>・ 税金の 3500 万円の使い方をもう少し考えてほしい。(事業 No.16)</li> <li>・ 富士山を出して一層強めていけばそれに伴っていくと思う。また、安全は確保しておかねばならない。以上のことから、世界の富士山を強化して、戦略を県民からも出してもらおう。</li> <li>・ アジアを重点にするのはもちろん間違いではないが、より大きな視点で「世界に誇れる」国際観光地とするための施策を実施すべき。</li> <li>・ 旅行、ビジネスにいろいろな目的がある。グリーンツーリズム、自然体験等から発掘して、県民からアイデア募集して県民の意識が盛り上がって(おもてなし)いくようになっていくと良いと思う。</li> <li>・ 富士山をメインにした観光ブランドを創りだすことは大変重要と思います。また、海にも目を向けるようにしてほしい。</li> </ul>
---

- ・「(1)広域交通…」については、補助金よりもアクセス整備に切り換えるべき。
- ・世界遺産をチャンスとしてこれから前向きに地元の意見も交えながらやってほしい。
- ・民間委託できることはやったほうがいい。
- ・「ふじのくに観光ブランド…」観光ブランドに農産物や自然環境を売り込むべき。
- ・「空港定期便…」修学旅行の必要はない、補助金が一部の人に限定されている。
- ・ふじのくに観光ブランド創出事業は今は何もしなくても向上するから少しでも重点的にすれば何倍も向上させるべき。
- ・観光ブランド・海外誘客に関して、現在は世界遺産の富士山、それをどういった方向性に向けるのかということの指揮官として導くことがまず重要。その後はプロ(民間)に任せることで、たくさんのアイデアの中で利益を得られる方法を決定していくことが必要だと思ったので、期間を決めて方向性を決めていくこともありなのではないかなと思います。
- ・航空保安関係事業費は細かな内訳がわかればまた違いました。今重点的に行うことではないと思う。
- ・No13、14 強み、弱みを明確にし(データ解析) 伸ばす分野、改善点を決め直し、県として取り組むべき内容を決めて再スタートする。期限も必ず決めて実施のこと。
- ・No15 本事業については、整理して今後どうするかを決める時期にある、周囲の状況を考慮しても今の進め方がよいとは思えない。視点を変えて抜本的な取組方針を見直す必要ありと考える。
- ・使おうとしている観光ツールの強み、弱みをしっかりと分析、解析を行い、伸ばすところ等を明確にする作業を行う必要がある。強みを活かすためにターゲットを絞り込むことが必要。
- ・空港についてはありき前提で進めるのではなく、ゼロベースで始めから考えるべき。観光資源活用のためには、資源の継続的な維持、メンテナンスが必要。そういった事業を事業化してほしい。
- ・観光ブランド創出事業は、今が旬の富士山を主に県内の観光資源を見直し、十分に活用したい、タイミングを逃さずに。空港定期便拡充促進は、海外誘客推進事業とも重なっているので、縮小してもいいと思う。観光で注目されてくると自然と利用者が増えると思う。
- ・ふじのくに観光ブランド事業は、多くの人々が訪れる観光地静岡県を目指し、重点的に実施してもらいたい。空港定期便拡充促進については、まず空港周辺整備をしてほしい。観光ブランド創出に伴い、ものづくり、文化の人材育成のために税金を投入し、誇れる観光ブランドを創り出してもらいたい。市町村との連携をとり、重複することのない事業をして欲しい。
- ・富士山を目玉にした観光地のブランド化を図る為、推進を大いにすべきである。(他県を含めて広域事業に) 定期便拡充は、現状の施策では期待出来ない。改めて練り直す必要がある。
- ・海外誘客推進事業は必要だが、観光ブランド創出事業の一部として行うべきではないか。空港定期便事業は東京オリンピック、富士山世界遺産と合わせて今の時期は押して行くべき事案だと思う。航空保安事業は廃止できない以上は、航路本数拡大に伴い増額せざるを得ないだろう。
- ・東京オリンピックが決定した以上、今までの計画は全て見直しをすべきではある。
- ・ を付けた観光ブランドと海外誘客の2つの事業は、世界遺産に登録された富士山をアピールすることで、観光ブランドを確立させ、リピーターを期待できると考えます。まだ、先になりますが、オリンピックを目標に海外からの観光客の増加を目指して実施していただきたいです。また、その為の受け皿(道路案内、宿泊所など)の充実を望みます。県民の県のみどころへの意識を高める必要があると思います。県内の富士山のベストビュースポットコンテストなどを開催して、自然と意識が高まる案を考えていく必要があると思います。
- ・県の魅力を県民一人ひとりが共有し、県外の方や外国の方に案内できる体制が出来るとよい。
- ・空港定期便拡充促進事業費については、作ってしまった施設を上手く活用する手立て、例えば国際会議場を近くに作るなど、施策の方向転換が必要ではないか。
- ・観光ブランド創出事業は、内容の見直しは必要ですが、観光ブランドを個ではなくコンセプト、戦略として全体を見通した資源の磨き上げが必要であると考えます。空港定期便拡充事業は、他事業との重複内容を見直す事で縮小が可能であると思います
- ・国内については、ある程度手を尽くしているため、今以上の費用をかけてまで事業を行う必要性は考えられない。工夫は必要だが。一方、海外については、大きな拡充が見込まれ、将来性も大きい。ここを重点的に実施する価値は高いと考える。定期便拡充については、現在の事業のまま続けることは無駄が多い。一旦縮小、とり止めて、全面的に見直しが必要。航空保安については、現状維持しか選びようが無いのでは。

- ・魅力創造の為には観光ブランド創出と海外誘客の2つの事業を大切にしていきたい。富士山静岡空港の為の出費は縮小の努力を願いたい。
- ・富士山ブランドについては、国内向け、国外向けで安全に分けるのではなく、協同することで相乗効果が見込まれる。県民の力をもっと活かすことで費用をかけずに大きな効果を得る方向もしっかりと考えて欲しい。
- ・ブランド事業は目的としているものが見えない。海外誘客推進事業は、富士山の利用をしっかりと考えて重点的に事業を進めてほしい。県民を元気にしてほしい。定期便拡充促進事業は、駐車場の問題、アクセス等を今一度考えなおしてほしい。保安事業はわかりません。
- ・観光資源として光るものはあると思うが、それは点であって、線になって面になって広がりを持つというようなところが見当たらない。全体を俯瞰するような事業の作り方がこれからは必要ではないか。
- ・観光資源については市町の方が詳しいことも多いと思うので、県としてはどういう形で市町と連携していくのかを考えて、また市町との役割分担の中で県は人材育成に力を入れてほしい。
- ・事業 No13、事業 No14 については、対象が国内か海外かという違いだけで、何故これが分かっているのかが理解できない。まとめた方が効率的に実施できるのではないか。

## (2)その他の意見

- ・富士山と海は世界でも類を見ない観光資源だと思います。是非大事に育ててほしいと思います。
- ・対テロ対策は県、国でなければできないことです。予算をつけることでこの部分に関わることができるので必要である。
- ・魅力があり世界遺産ある静岡ブランドを創出することによって、海外からの誘客も増え、結果静岡空港の利用も増えるのではないかと。
- ・東京オリンピック開催が決定した。静岡県の魅力発掘と受け入れ体制の準備を進めることが重要である。
- ・年度内タイに交流協定を結ぶのも非常に良いと思う。
- ・効果が分からないため方法や内容を考えてコストをかけずに行う必要がある。
- ・事業とはわれわれが必要とするものを実現すべきであって、しりぬぐいであってはならない。
- ・静岡県は面積、位置、気候、海、山、平地、産物等どれをとっても全国トップレベル。富士山の世界文化遺産登録もあり、これから切り口を活用して富士山空港活性化や県事業促進を図るのは今からが大チャンス。こうした観点から左記（観光ブランド創出事業～空港的便拡充促進事業）を強化することに賛同します。
- ・精度の高い実際情報をさらにキャッチし、当プロジェクトの推進を図ってください。その都度、業者や有識者会議等に委ねるのではなく、当事者自ら行動することが成功への近道と思います。
- ・ふじのくに観光ブランド創出事業は観光資源（西部、中部、東部）より1個ずつ出し、憧れの観光地づくりの向上に効果が高いと思います。
- ・空港定期便拡充促進事業は需要が少なく目的の達成に寄与しないと思います。
- ・「(3)世界に…」は富士山世界文化遺産がブームで終わらないような地域資源磨きと新たな視点でのふじのくにの魅力創出をしていきたい。魅力をつくることでリピーターを増やしたい。県民の富士山教育を充実させたい。
- ・「(4)国際観光…」については、「(3)世界に…」を優先したい。魅力があればどこからでも来る。社会情勢の中で、反日と考える国にコストをかける必要はなく、国と定型した取組が必要と考えます。
- ・「航空保安」はやらなければならないこと。
- ・国際競争力の向上に注力すべき。
- ・相手は国内の他観光地ではなく、国外の似たような観光地である。
- ・「ふじのくに海外誘致…」ただ単に人数ではない。観光だけでなく、他の理由で国がやる仕事である。
- ・「航空保安…」費用は多くない。安全確保は大切（今後オリンピックもあるので）。
- ・保安関係業務は第一重要でなくてはならない。
- ・静岡県の誘客を図る事に、県内経済活性と効果が有り、成長を期待できる。それに伴い地元の観光の目玉の掘り起こし、整備、磨きの更なる充実を図る事をのぞみます。食、住（ホテル宿泊場所）バランスよくしないとイケないかなと思います。
- ・海外誘客推進事業を上げた理由は、県内で需要を作り出すことは無理。ましてや少子化の進んでいる現状の中で、ハード面の輸出等もままならない状況では、活性化を考えると海外誘客は最も必要。観光ブランド創出は、観光資源発掘から始まりブランド創出をすると同時に“もてなしの心””サービス精神“をブランドに肉付ける。定期便は、税金使われる。保安は、県がやるべきことか。
- ・観光ブランド創出や維持管理等を考えるのは県。どうやって誘客をするかは民間が得意と思う。官民一体となって、進めなければいけないのが観光事業と思う。見たい、行きたい、参加したいと思わせる観光を考えてほしい。とりあえず県民目線で住み心地のいい静岡県をPRしたい。
- ・空港は基本的にいらないと考えている。
- ・伊豆では7月末で「らの里堂ヶ島」が閉園した。ホテルの廃業も続き、失業者も増えている。観光で雇用を増やせることを期待している。